

死んだ魂の行く先は天国か地獄か、究極の選択にプレッシャーがかかる中、亡くなった人に対して真摯に向き合う主人公は頼もしく見える。

エンターテインメントの楽しさもありながら、しつかりしたロジックの推理が光る作品。

(マルサン書店サントムーン店 原田さん)

殺人事件の展開、使命の行方、烏間の苦悩、周囲の人々との信頼、

全てにおいて先が気になり、読む手が止まりませんでした。

(金沢ビーコンズ明文堂書店 田口さん)

個々の事件と不思議な雰囲気からのちよつと怪しげな依頼。並行して進む、そのどちらにも楽しめました。

切なく、やりきれなさであふれていて、手に汗握ると同時に胸が痛くなりました。

(紀伊國屋書店 相模女子大学 藤井さん)

逆行探偵

阿泉 来堂

Raidou Azumi

